

特別展

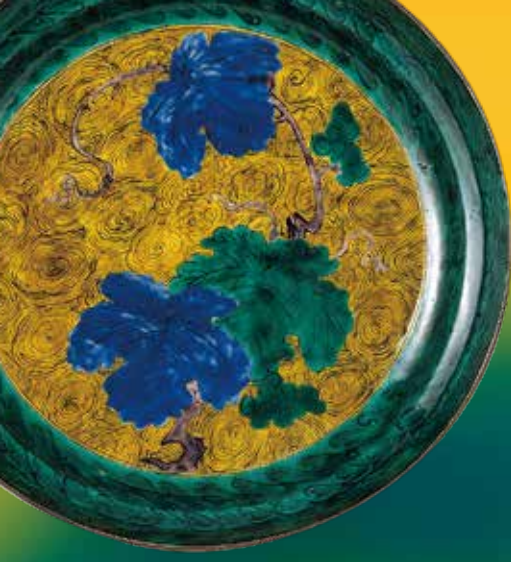
# 国宝 燕子花図屏風

2020年

4月18日(土)～5月17日(日)

根津美術館 NEZU MUSEUM

## 色彩の誘惑



Special Exhibition

The National Treasure *Irises Screens:*  
**The Allure of Color**



おがた こうりん (1657～1716) の筆になる「燕子花図屏風」は、カキツバタという単一の植物を、全面に金箔を貼った大画面に、絵具としては群青と緑青のみを使って描いた作品です。制限されたモチーフと色彩が、韻律に富む画面構成をいっそう際立たせています。ふんだんに用いられた上質な絵具それ自体も魅力ですが、これら青と緑と金(黄)の三色は、しばしば組み合わせられて、日本・東洋の美術において特別な伝統を有する色でした。その一方、本作品の鮮烈な色彩感には、江戸時代ならではの美意識が反映しているとも見ることができます。

このたびの展覧会では、平安時代の紺紙金泥経や、青や緑を主調とする画面に金彩が加わって聖なるイメージがつけられる中世の仏教絵画、あるいは群青と緑青と金を用いて描かれた唐時代以来の金碧山水(青緑山水)などと、中国の華南三彩の色使いに通じる清新な古九谷や黄瀬戸など同時代の陶芸作品、さらには色彩傾向を同じくする金屏風の数々をあわせて展示することで、「燕子花図屏風」に新しい光を当てることを試みます。

上色絵 葡萄文大平鉢(部分) 肥前 日本・江戸時代 17世紀  
下 国宝 燕子花図屏風(部分) 尾形光琳筆 日本・江戸時代 18世紀  
いずれも根津美術館蔵

<http://www.nezu-muse.or.jp>

根津美術館  
NEZUMUSEUM



【展示室1 & 2】

律動感を高める鮮烈な色彩

京都の高級呉服商・雁金屋<sup>かりかねや</sup>に生まれた光琳は、文様と色に囲まれて育った。発色の良い高価な絵具を使う機会を得て、その心は高揚したに違いない。



かきつばたずびょうぶ おがたこうりん  
 国宝 燕子花図屏風 尾形光琳筆  
 紙本金地着色 6曲1双  
 日本・江戸時代 18世紀  
 根津美術館蔵

聖なる青・緑・金



背後にはこんもりとした御蓋山<sup>みかさやま</sup>、緑豊かな春日野に抱かれた社殿。まっすぐ伸びる参道にほどこされた金泥は、ここが浄土であることを表す。

重要美術品  
 かすがみやまんだら  
 春日宮曼茶羅  
 絹本着色 1幅  
 日本・鎌倉時代 14世紀  
 根津美術館蔵



写経での染紙の使用は当初、防虫効果を期待するものだったが、やがて経典を荘厳するため、藍で青く染めた紙に金泥で文字を書くのが一つの典型となる。  
 おんじにゅうきょう じんごじきょう  
 陰持入経(神護寺経)(部分) 紺紙金泥  
 1巻 日本・平安時代 12世紀  
 根津美術館蔵

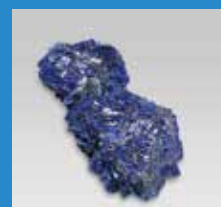
群青と緑青と金を用いて描く金碧山水<sup>きんぺき</sup>は、水墨画が成立する以前の装飾的な様式。中国では、古典的な趣を作品に与える技法として、また日本では、やまと絵山水の基本となった。

せんざんろうかくずかん ちょうほくしゆく  
 仙山楼閣図巻(部分) 伝 趙伯驩筆  
 絹本着色 1巻 中国・明時代 17世紀  
 個人蔵



<コラム:「群青と緑青」>

「燕子花図屏風」の花に使われる群青<sup>らんどうろう</sup>は藍銅鉱、葉に使われる緑青<sup>くじやくいし</sup>は孔雀石、それぞれの鉱物を砕いて作られた岩絵具です。藍銅鉱と孔雀石は、ともに銅が水や空気に触れて変化した二次鉱物で、自然界ではふたつが混じり合って存在していることも少なくありません。そのため精製が難しく、とくに品質の良い群青は高価になります。



藍銅鉱 中国産 国立科学博物館蔵

## 金屏風に息づく色の伝統



しき たけずみ びょうぶ  
四季竹図屏風  
紙本金地着色 6曲1隻  
日本・室町時代 16世紀 個人蔵

四季のうつろいと循環する時間を、常緑の竹に託して描く。無背景の金地に単一植物を描く屏風の始まりは、室町時代のやまと絵に求められる。



うじ びょうぶ  
宇治図屏風 紙本金地着色  
2曲1隻  
日本・江戸時代 17世紀  
根津美術館蔵

名所はしばしば社寺を擁する。近世の名所風俗図屏風の色彩は、中世の宮曼荼羅のそれを受け継いでいると見ることもできる。

## やきものにおける新しい色彩感



いろえぶどうもんおおひらぼち ひぜん  
色絵葡萄文大平鉢 肥前 1枚  
日本・江戸時代 17世紀  
根津美術館蔵

青や緑の寒色に鮮やかな黄色が映えるやきものは、舶載された華南三彩の影響を想像させる。「燕子花図屏風」と同じ三色が、ここではエキゾチックな魅力を発している。



きせ とほうじゆこうごう  
黄瀬戸宝珠香合  
みの美濃 1合  
日本・桃山時代  
16～17世紀  
根津美術館蔵

ベースの黄色にしばしば緑がアクセントになる黄瀬戸の洒落た色彩感も、近世初期の美意識が反映していよう。



そめつけゆきわすいせんきくもんさら  
染付雪輪水仙菊文皿  
ひぜん なべしまはん  
肥前・鍋島藩窯 1枚  
日本・江戸時代 17世紀  
根津美術館蔵

17世紀初頭に始まった伊万里の磁器、ことに染付は、生活に青いやきものを根付かせた。染織の雪輪文様と草花を組み合わせた意匠も斬新である。

【展示室5】はじめての古美術鑑賞 - 能装束の技の美 -

能舞台を彩り、登場人物の性格や心情をも物語る装束。能の美を支える多様な染めと織りの技法を10点の作品で詳しく紹介いたします。



むらさきろじ あきくさくすいちょうけん  
紫紺地秋草菊水長絹  
1領  
日本・江戸～明治時代  
19世紀  
根津美術館蔵

紫色の絹地に平金糸で秋草菊水を織り出した長絹。  
能「杜若」では杜若の精（業平）の思い人である二条後の  
衣装として絹の長絹が用いられることが多い。



しろじ せいがいはい せんめんちらしもんようぬいはく  
白地青海波に扇面散文様縫箔  
1領 日本・江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

摺箔の青海波文を背景に、刺繍による扇面文をダイナミック  
に散らした縫箔。色彩豊かな刺繍が澁刺とした桃山時代の気  
風を伝える。

【展示室6】燕子花図屏風の茶会

当館のコレクションの基を築いた根津青山（1860～1940）が、昭和12年（1937）5月の初風炉で「燕子花図屏風」と共に取り合わせた茶道具をご覧ください。



重要美術品  
あまもりちやわん  
雨漏茶碗 銘 蓑虫  
みのむし  
1口 高麗茶碗  
朝鮮・朝鮮時代 16世紀  
根津美術館蔵

薄茶席のひとつ目の茶碗として用いられたのが、「蓑虫」の  
銘を持つ本碗である。「雨漏」と呼ばれる、長年の使用によ  
りあらわれた沁みが見どころ。



なりひらまきえずすりぼこ  
業平時絵硯箱  
伝 尾形光琳作  
1合 木胎漆塗  
日本・江戸時代 18世紀  
根津美術館蔵

扇面に狩衣姿の在原業平が時絵などであらわされた硯箱。  
光琳作として知られることから、茶会終了後、母屋での饗  
宴の席で「燕子花図屏風」と共に並べられた。

イベント情報

夜間開館

5月12日（火）から  
5月17日（日）は  
午後7時まで開館。  
（入館は閉館30分前まで）



夜間開館期間中、NEZUCAFEでは  
午後5時以降にシャンパンを販売いたします。  
アフター5にどうぞお立ち寄りください。

グラスシャンパン  
1,500円（税込）  
シャンパン&プロシュートセット  
1,900円（税込）



特別催事「仕舞」

夜間開館の一日、夕暮れの庭園を臨むエントラン  
スホールで、幽玄の舞姿をお楽しみください。

日時：5月13日（水）午後5時30分～6時

出演：九世 観世鏡之丞氏（能楽師）



（イメージ）

- ・ 演目は追って当館ホームページにてお知らせします。
- ・ 事前申込は不要ですが、美術館入館料が必要です。
- ・ 着席観覧ご希望の方には、午後4時から抽選券を配布しますので当館地下1階講堂前へお集まりください。抽選結果は午後5時に発表いたします。（立見でもご覧になれます。）

【庭園からのご案内】



作品の鑑賞とともに、カキツバタの咲く庭園の散策もお楽しみください。(開花予想：4月下旬～5月上旬)

【庭園内茶室でくつろぎのひと時を】



本展期間中、庭園内茶室「披錦斎」にてお抹茶と和菓子のセットを販売いたします(税込1,000円)。庭園の緑を眺めながら、おくつろぎください。

(茶室の利用状況により、販売を行わない日もございます。実施の有無は当日ご確認ください。この間NEZUCAFÉでのお抹茶セットの販売は休止します。)

(イメージ)

関連プログラム

講演会 「修理で見た燕子花図屏風の美」  
(事前申込制) 日時 2020年4月25日(土) 午後2時～3時30分  
講師 岡 岩太郎氏(岡墨光堂 代表取締役)  
会場 根津美術館講堂 定員130名

〈申込方法〉 当館ホームページの「イベント情報」の申込みフォームから、または往復はがき(1参加者1イベントにつき1枚)に参加を希望されるイベント名・住所・氏名(返信面にも)・電話番号を明記の上、〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 「根津美術館講演会係宛」にお送りください。

※3月25日(水)、午前10時より受付開始  
(往復はがきは当日の消印より有効)。  
※先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。

スライド  
レクチャー  
(事前申し込み不要)

●モーニングレクチャー  
4月21日(火)、5月1日(金)  
いずれも午前11時から45分程度

●イブニングレクチャー  
5月15日(金)  
午後5時から45分程度

講師 野口 剛(根津美術館 学芸部次長)  
会場 根津美術館講堂 定員各回130名

担当学芸員が展覧会の見どころをスライドを用いて解説いたします。  
内容は各回とも同じです。事前申し込み不要。開始の15分前より開場いたします。

※先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。参加は無料ですが、入館料をお支払いください。

\*本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報は当館広報課へお問い合わせください。(2020.1)

開催概要

展覧会名 特別展「国宝 燕子花図屏風 一色彩の誘惑一」

主催 根津美術館

開催期間 2020年4月18日(土)～5月17日(日)

開館時間 午前10時～午後5時(入館は閉館30分前まで)  
夜間開館: 5月12日(火)～5月17日(日)は  
夜7時まで開館  
(入館はいずれも閉館30分前まで。)

休館日 毎週月曜日、ただし、5月4日(月・祝)は開館。

入館料 一般 1300円(1100円)  
学生 1000円(800円)  
※( )内は20名以上の団体料金、障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。

前売券 一般 1100円 学生 800円  
※2020年2月22日(土)～3月29日(日)  
特別展「虎屋のおひなさま」開催期間中、  
当館ミュージアムショップにて販売

アクセス 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道)駅  
下車A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分

住所 〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1  
お問合せ Tel. 03-3400-2536(代表)  
website <http://www.nezu-muse.or.jp>

記者内覧会 2020年4月17日(金)  
午後1時30分～3時(予定)  
ご案内ご希望の方は、当館広報課へご連絡ください。

次回展 企画展「茶入と茶碗 一『大正名器鑑』の世界一」  
2020年5月30日(土)～7月12日(日)

茶道具図鑑の大著『大正名器鑑』の編者・高橋箒庵と、根津美術館の礎を築いた根津青山は盟友でした。本書掲載の青山旧蔵品を中心に茶入・茶碗の名品を展覧します。

たいしょうめいきかん



(右)  
重要文化財 肩衝茶入 銘 松屋  
福州窯系  
中国・南宋～元時代  
13～14世紀 根津美術館蔵  
(左)  
高橋義雄(箒庵)編  
『大正名器鑑』(初版本)  
日本・大正10年～昭和元年(1921～26)  
根津美術館蔵